



桑野氏

概要

◆氏名・所在地

桑原 健輔 福岡県福岡市

◆就農年

令和7年4月

◆事業内容

雇用就農先でハーブ、大根等の栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

別産業で働いていたが、小さいころから農業を体験し、もともと興味があった農業に転職することを決断。

将来的に職業として農業をするためにどうしたらいいのか、どこに相談すればいいのかを情報収集していたところ、ホームページをみて、福岡県就農支援センター（以下「支援センター」という。）を知った。

2

相談内容

チームとしてみんなで一緒に頑張りたいという思いから、雇用就農を考えているが、どういった就農先があるのか。また、雇用就農するにあたって今後の動きについてアドバイスが欲しい。

3

支援内容

●農業法人視察会の紹介

雇用就農について具体的にイメージできるように、支援センターが主催する、県内農業法人の視察会を紹介。

実際に参加し、農業現場を見学して、経営についての話を聞くことで、ネットの情報だけではわからなかった雇用就農について、より具体的なイメージを抱いていただけた。

●トライアル就農による取組

県の「雇用就農者トライアル就農支援事業」を活用して、2カ月間お試しで就農を実施。多くの法人のリストの中から、品目や従業員数など、本人の希望にそって、糸島市の先進農業法人を選択した。種まきから収穫までの栽培技術を学びながら、品種の多さや作業工程など、農業について新たな発見や想像とのギャップを感じていただけた。トライアル期間終了後も、同じ先進農業法人にて雇用就農した。



農業法人視察会の様子



ハーブの収穫の様子

今後の意気込み

紹介いただいた農業法人では、**雇用型農業経営を確立した元従業員がおり、身近に好事例**があります。社長から農業経営の考え方や時間管理の重要性について説明を受けたりしてます。また、日頃から先輩従業員の方から、栽培管理などの作業方法について丁寧な指導もあり、農業経営に対するイメージが明確になりつつあるところです。

紹介いただいた支援センターの就農専属スタッフの方とのご縁だと感謝しております。

今後も、栽培技術等を学んでいき、社員の方とコミュニケーションを取り合いながら、作業一つ一つにどういった意味があるのか考え、農業に向き合っていきます。

専属スタッフ所感

相談時から、本人の精神面と体力面とも充実した有望な人材であり、期待ができると感じました。今回、相談者の希望である職場環境等と農業法人の希望が上手く合致しました。**就農へ導くためには、マッチングが非常に重要である**と考えております。

期待通り勤務態度も非常に良く、農業法人からの評価が高いです。今後、福岡県の若手担い手として、**普及指導センターと連携しながら、引き続きフォロー**していきます。



アスパラガスでの就農を目指す尾辻氏

概要

◆氏名・所在地

尾辻 拓斗 佐賀県佐賀市

◆研修開始年

令和6年1月

◆研修内容

アスパラガス栽培での就農を希望し、佐賀市鍋島町にあるトレーニングファームで2年間の研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

自ら考え、実行できる仕事として、農業への転職を志す。アスパラガス栽培は、比較的初期投資も少なく済み、軽量で、単価も安定しており、夫婦で収穫作業ができる品目として着目。

就農に必要な情報を得るため、さが農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）に相談した。

2

相談内容

自身は鹿児島県出身で、物流会社に勤務している。妻とともに山口県に居住しているが、近々、妻の実家のある佐賀県佐賀市に移住し、独立就農してアスパラガス栽培を行いたい。

就農のための研修先、農地確保、支援制度等について具体的に知りたい。

3

支援内容

●研修先や就農セミナーの紹介

支援センターでは、農地確保や研修先の相談窓口の紹介を行った。また、県内各地で開催されている、アスパラガスに関する就農セミナーを紹介し、参加を勧めた。

●研修先（トレーニングファーム）調整・決定

伴走機関のJAさが、佐賀市役所、佐城農業振興センターなどでは、尾辻氏を対象とした就農相談を重ね、研修先の検討・調整を行った。その後、「佐賀市アスパラ部会トレーニングファーム運営協議会」において、令和6年1月からスタートする第1期の研修生として尾辻氏を決定した。



アスパラガスマニトレーニングファームで研修中の尾辻氏

●関係機関との連携による取組

研修がスタートするまでの期間、同市内でのみかんの収穫やアスパラガス選果業務に従事するなど、農業に対する見識を深める活動にも取り組んでいた。

佐城農業振興センター、JAさが、佐賀市は、購入できる農地情報の提供、また、アスパラガス栽培用ハウスの事業活用について助言するなどし、研修後の就農に向けての準備が着々と整いつつある。

また、同農業振興センターでは、就農後のフォローアップとして、重点的な技術・経営面の助言と指導を行うこととしている。



左からトレーナーの横尾氏、尾辻氏、横尾トレーナーのご子息

今後の意気込み

待望の第一子が生まれ、就農に向けた環境が変わる中、アスパラガス栽培の研修を受けつつ、飲食店のアルバイトを掛け持つなど、忙しい日々を送っている。しかし、それ以上に「今が楽しい」と実感している。

アスパラガスの収量を増やすことだけが目標ではなく、多くの人が佐賀に集まり、アスパラガス生産がもっと盛り上げられたい。SNSの活用や6次産業化にも取り組みたい。インパクトのある「記憶に残る農家」を目指したい。

専属スタッフ所感

トレーニングファームの横尾トレーナーによれば、尾辻氏は就農に向け、熱心かつまじめに研修に取り組んでおられる一方、他の研修生も含め、研修の場をなごませる、ムードメーカー的な存在でいらっしゃるとのこと。

今後、就農後のご本人の経営安定はもとより、トレーナーや関係機関など、支えてくれる周囲の皆さんへの感謝を忘れず、県内のアスパラガス生産の盛り上げに、一役買ってもらうことを期待しています。



田川ご夫婦

概要

- ◆氏名・所在地
田川 純、田川 沙弥香 長崎県大村市
- ◆就農年(就農した年月)
令和6年6月
- ◆経営規模
いちご 8a
- ◆従業員数
家族労働 2名
- ◆事業内容
いちご高設栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

夫婦とも長崎県の非農家出身で、学校卒業後に県外で民間企業に就職。奈良県で結婚し、第一子の誕生を機に純氏の地元（大村市）へのUターンを検討したが、地元には純氏のスキル（化学系）を活かせる勤務先がないため、夫婦で新規就農（自営就農）に取り組むことを決意した。

何から始めれば良いか分からなかったが、長崎県における新規就農に関する支援策や研修制度をネットで調べたところ、「農業経営・就農支援センター（以下、支援センター）という。」（旧：長崎県青年農業者等育成センター）を知り相談した。

2 相談内容

農業に関する知識はほとんどなく、就農の手順、就農支援策、研修制度、農業経営、農地や栽培施設（ハウス）の確保、補助事業などの具体的な情報収集が必要であったため、令和2年度からオンライン等により「支援センター」に相談を行った。

そこで、品目は長崎県の主要品目であるいちごを候補と考え、奈良県のいちご農家で農作業（週1回程度）を経験。併せて、就農に必要な自己準備資金を貯める努力をした。

3 支援内容

・農地利用や生活面の相談対応

いちごを栽培するというだけでは決めていたが、農業未経験ということで農地取得・施設（ハウス）整備のことなど、農業を始める上で必要な情報や研修先の紹介などを専属スタッフが行った。

・研修機関等の紹介

相談者と協議を行い、農業の基礎技術の習得およびいちご栽培を行う上で必要な実践技術習得ができる長崎県技術習得支援研修を受講することを決定した。

2か月間の基礎研修の後、大村市内のいちご先進農家で10か月間の研修を行い、栽培技術を習得させた。

・関係機関との連携による取組

支援センターと連携している普及指導センターやJ Aながさき県央、大村市と一緒に研修中から農地確保、施設（ハウス）整備等の協議を行い、円滑な就農につなげることができた。

・就農市町村の決定

地元である大村市において、21aの農地を借り受け、県や市の補助事業等を活用して、中古ハウス8aを移設し、高設ベンチ、暖房機、炭酸ガス発生装置等の付帯施設も中古品を導入。初期投資を極力抑え、いちご栽培を開始した。



ワークショップで発表する様子



農作業安全研修を受ける様子

今後の意気込み

目標単収6.3t/10aの達成に向け、自身の感覚も磨きながら環境制御技術を活用し、栽培技術の向上を目指します。

また、収入を確保するために早く栽培面積20aまで規模拡大を図っていきます。将来は、家族と過ごす時間を確保しながら思い描く生活を実践していきたいと考えています。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。就農までの準備を丁寧に行うことでその先の経営発展にもつながります。

相談者は就農に関して夫婦でよく話し合い、長期の準備期間を設けて農業体験や自己資金の準備を行うなど、先を見越して取り組まれていました。

地域の担い手となっていただけるように、今後も経営相談を通じて引き続きフォローしていきます。



施設ピーマンの作業をする大門氏

概要

- ◆氏名・所在地
大門 剛 熊本県宇土市
- ◆就農年
令和4年4月
- ◆経営規模
ピーマン 75a
- ◆従業員数
役員2名、正社員1名、パート・アルバイト3名
- ◆事業内容
施設ピーマンの栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

専業農業だった祖父が亡くなり、その後父が兼業で小規模に正月花を生産していたが、あまり手伝いはしなかった。しかし、**もともとモノづくりが大好きで、ある日YouTubeで施設園芸をたまたま見た時に環境制御や現代農業のあり方に一目惚れし、農業に参入しようと決意した。**

何から始めれば良いか分からなかったが、ネットで調べたところ、熊本県農業経営・就農支援センター（旧：熊本県新規就農支援センター、以下「支援センター」という。）を知り相談した。

2 相談内容

今の建設会社を辞めて**本格的に農家を始めたい。どうしても農家になれるか、支援制度、営農計画の立て方等農業を始める上での必要な情報を知りたい。**

3 支援内容

●就農の手順についての相談対応

支援センターのホームページ掲載のパンフに基づき、農業ほぼ未経験ということで**インターンシップ・支援制度・営農計画のことなど、農業を始める上で必要な情報提供**を専属スタッフが行った。その後、関係資料を郵送した。

●研修機関等の紹介

J Aや市町村ごとに相談者に適した研修情報が提供され**地域アドバイザーと相談ができる支援センター主催の冬の「セミナー＆相談会」**を勧めた。

相談会后、専属スタッフから相談者の営農までの研修先となるJ A熊本うきを紹介した。

●関係機関との連携による取組

支援センターと連携しているJ A熊本うきにおいて、**実践的な農業技術や農政にかかる基礎知識、農業経営者としての自立に向けた研修を実施した。**1年の研修受講後、就農することになった。

●株式会社の設立

就農7ヶ月後、「Daimon farm株式会社」を令和4年11月に設立した。

また、施設ピーマンの栽培面積も、当初の40aからも令和7年2月には75aへ規模拡大をしており、今後も経営相談を通じてフォロー行う予定。

※令和7年2月には支援センター主催の「セミナー＆相談会」で新規就農者の事例発表を務める。



県、市及び地域アドバイザーによる現地巡回指導の様子



セミナーの中で事例発表をする大門氏（左）

今後の意気込み

ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口へ何度も相談することでしか得られない情報が多くありました。

株式会社にしましたがまだ農業経営は手探り状態なので、就農後も経営相談を通じて関係者の方に助けていただくことも多く、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。短期研修紹介や動向調査、そしてフォローアップ等を行うことで就農のステップアップにもつながります。

また、本県独自の地域アドバイザー制度により行政、J A等の関係機関が一丸になり就農後の巡回指導を行い、技術や経営面での相談対応をしています。

地域の担い手となっていただけるように、今後も現地巡回等を通じて引き続きフォローしていきます。



栽培施設前の井上ご夫妻

概要

- ◆氏名・所在地
井上 哲司・井上 玲音 大分県豊後大野市
- ◆就農年
令和6年2月
- ◆経営規模
ピーマン 0.18ha
- ◆従業員数
家族労働 3名
- ◆事業内容
ピーマンと花きの複合経営を目指す。

1 就農相談までの背景

子供たちが独立したら「農業に携わって生活したい」という夢を持ち、農業をはじめするための情報を集めている中で、豊後大野市のインキュベーションファームをインターネットで見つけた。また、豊後大野市の田舎風景は日本各地を廻っていた時から気に入っていたため、令和3年6月「新・農業人フェア」にオンラインで参加し、その後、おおいた農業経営・就農支援センター（以下、「支援センター」という。）を訪ね、インキュベーションファームの短期研修を紹介してもらった。

2 相談内容

「農業を始める時には軽くて扱いやすい品目」と大まかな構想はあったので、自分なりに営農までの計画を作成するためにネット等を活用して情報を集め始めた。

農業の経験・知識がほとんど無く、技術面や資金面、収入の安定性、農地の取得情報などの専門的な観点からの助言が必要だと実感したため、**より具体的な営農までの計画や研修内容、生活資金面について相談した。**

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

営農までの計画は相談者なりに作成していたが、農業未経験ということで**農地取得・生活資金面についてなど、農業を始める上で必要な情報を提案するなどの相談対応**を専属スタッフが行った。

●研修先の紹介と実践

相談者が興味を持っていた**市の研修施設の情報を提供。短期期間の体験実習を経た後、入校。**

研修期間中は専任講師から農地情報や農業技術を指導した。

また、市からも研修期間中の宿舍や生活面でのアドバイスをを行った。

●関係機関との連携による取組

就農後はインキュベーションファームを卒業した先輩や支援センターの専属スタッフから専門的な技術の指導を行った。

●就農市町村の決定

ピーマンは灌水施設のある農地が重要。**インキュベーションファームで研修中から市や専任講師から農地情報を提供し、居住地やJAの出荷施設等の条件を加味して決定した。**



インキュベーションファーム（就農研修施設）



ピーマンの選果作業

今後の意気込み

ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口に行き何度も相談することでしか得られない情報が多くありました。

まだ農業経営は手探り状態ではあるため、就農後も経営相談を通じて関係者の方に助けていただくことも多く、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。就農までの準備を丁寧に行うことでその先の経営発展にもつながります。

相談者はご自身でも事前に準備されていたことで、就農におけるビジョンが明確化されており、こちらからのアドバイスに対しても意欲的に取り組まれていました。

地域の担い手となっていただけるように、今後も経営相談を通じて引き続きフォローしていきます。



谷口氏

概要

◆氏名・所在地

谷口 浩平 宮崎県日南市

◆研修開始年

令和6年7月

◆研修内容

宮崎県が運営している研修先の「みやざき農業実践塾経営実践コース（1年間）」で、きゅうりでの就農を目指すため、栽培技術や経営知識、農業機械等操作の習得等に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

神奈川県で製造業に携わっていたが、子供が生まれ、食について考えるようになり、自分でも何か作物を作って子供たちに食べさせたいとの思いから、故郷の宮崎県日南市で就農したいと考えるようになった。情報収集をする中、宮崎県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）が開催する就農相談会（みやざき就農“応援”相談会）が令和3年10月に宮崎市で行われることを知り、参加。その後もさらに詳細な相談をするため支援センターに支援を仰いだ。

2

相談内容

日南市で就農したいが、農業経験がないため、研修機関や、農家等で経験を積み、2、3年後に独立自営就農したい。希望作目は、情報収集や様々な品目の農業体験等をする中で、具体的に決めていきたい。そのため、研修受入情報や就農支援制度について具体的に知りたい。

3

支援内容

●相談会や個別相談での情報提供

「みやざき就農“応援”相談会」において、就農専属スタッフから就農に関する情報を提供したほか、日南市や研修受入先と連携して情報提供を行った。また、相談会後も、個別相談等で継続した支援を行った。

●短期農業体験の実施

相談会にて、県の短期研修である「お試し就農」を案内。事業運営先である（株）スーブルと連携し、令和4年1月～3月きゅうりでの体験実施に繋がった。

●関係機関との連携による長期研修の決定

「お試し就農」後は、きゅうり、ピーマン、花き農家でそれぞれ半年～1年の雇用就農をし、農業経験を積みながら、具体的な品目選定と「みやざき農業実践塾」での長期研修を検討。その後、支援センターが実施する「みやざき農業実践塾体験講座」の受講をすすめ、その後長期研修先を決定した。

●研修期間の支援

支援センターと伴走機関が協力して、就農準備資金の申請手続きや研修状況確認など、研修期間中の支援を行っている。



みやざき就農“応援”相談会の様子



研修状況の確認

今後の意気込み

最初のきっかけとなった相談会では、様々な関係機関に相談することができ、一步を踏み出す事ができました。

相談で得た情報を活かし、自分自身でも経験を積み、研修に進むことができました。

これからの宮崎の農業を支える農家として、そして、きゅうり御殿を建てるために、てげがんばっどー！！

専属スタッフ所感

相談者は、具体的な将来像を描けるようになるまで、しっかりと体験をされ、情報収集も積極的に行い、分らないことがあれば、こまめに個別相談を行ってきました。また、研修中も、技術習得に努めながら、就農に向けた準備も、農業用ハウスの確保など着実に進めています。今後も、支援センターは、みやざき農業実践塾や就農予定地の関係機関と連携を図りながら、支援していきます。



北川 慧氏・沙恵子氏

概要

- ◆氏名・所在地
北川 慧・沙恵子 鹿児島県霧島市
- ◆就農年
令和7年4月
- ◆経営規模
露地野菜（生姜等） 65a
- ◆従業員数
家族労働 2名
- ◆事業内容
生姜を中心に、キャベツ等複数品目を組み合わせた経営に取り組む。

1 就農相談までの背景

二人とも非農家出身だが、農業に興味があり、大学卒業後、鹿児島県志布志市の農業法人に就業した。
就業先の農業法人では、作業が分業制で、一つの作物の全ての管理に関わることができず、いずれは独立自営を考えていた。
就業地の志布志市に相談したところ、第三者継承で就農する方法もあることを知り、第三者継承を推進している「かごしま農業経営・就農支援センター」（以下「支援センター」という。）に相談した。

2 相談内容

県外出身で鹿児島県での後ろ盾がないため、ゼロから経営基盤を作って就農することも考えられるが、第三者からの経営継承により、経営基盤を引継ぎ就農することも検討している。県内で移譲希望の農家がいるのか、また、移譲希望先の農家で研修ができるのか教えてほしい。

3 支援内容

●移譲希望農家の選定

支援センターが保有している移譲希望者リストの中から、希望する経営内容について聞き取りを行いながら、露地野菜を経営している移譲希望農家を選定し、移譲希望農家に継承希望者がいることを伝えた。

●移譲希望農家とのマッチング

移譲希望農家と面談し、お互いの考えについて話し合い、継承に向けて、研修を行った。
霧島市や普及指導センターと今後のスケジュールや支援体制について検討しながら、北川夫妻や移譲希望農家と研修内容や各種支援策の活用について話し合いを進めた。

●移譲希望農家での研修

移譲希望農家での実践的な研修を行いながら、基礎知識や経営管理については、普及指導センターが開催する研修に参加するなど、**実践的な農業技術の習得や農業経営者としての自立に向けた研修を実施した。**

●継承に向けた支援

関係機関（市、J A 等）で研修状況を確認しながら、普及指導センターを中心に、就農に向けた営農計画の作成や、継承に向けた話し合いを支援した。
（研修は令和7年3月で終了し、4月に経営継承して就農開始）



継承に向けた話し合い



経営基礎研修



新規就農者励ましの会

今後の意気込み

令和7年4月から就農を開始し、移譲元農家をはじめ、市や県の方々の協力を得ながら経営計画の目標達成に向けて日々営農に取り組んでいます。一つ一つ真摯に取り組み、地域の皆様に応援していただけるような経営を目指します。

専属スタッフ所感

タイミングよく移譲希望農家が見つかり、研修に入るまでスムーズに進めることができました。市やJ A、県のバックアップもあり、安心して研修をすることができたと思います。また、まじめに研修に取り組んでいました。
自分たちの夢（ビジョン）の達成と併せて、移譲された農家の思いを引き継ぎ、地域農業の発展のためにも、頑張っていきたいと思っています。引き続きフォローしていきます。